國學院大學学術情報リポジトリ

國學院大學所蔵『徒然草』関連資料解題

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-07-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊藤, 慎吾 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000634

國學院大學所蔵『徒然草』関連資料解題

伊藤慎吾

本学図書館には『徒然草』に関連する資料が思いのほか多い。以下、前稿「國學院大學図書館所蔵『徒然草』版本類解題」（本誌第四号所収）の続編として図書館及び日本文学資料室所蔵の資料を紹介する。なお、所蔵機関の注記がないものは本学図書館の所蔵本である。

1　『徒然草』諸本

(10)　徒然草　下　貴／一七二〇

列帖装零古写一帖。下帖のみ存。表紙の損傷が甚だしく、外装はほとんど剥落しているが、残欠部分によると紺紙を使用していたことが知られる。ただし装飾の有無は不明。本文に支障はない。表紙寸法、縦一七・七×横一五・八㎝。本文料紙は斐紙。見返は淡い小豆色の斐紙に金銀の野毛箔、切箔を散らす。外題欠、内題なし。毎半葉一一行。漢字平仮名交じり文。振り仮名は一箇所に見られるのみ。全八七丁。料紙は五括で、一括九紙、二括九紙、三括一〇紙、

四括七紙、五括八紙から成る。本文は一丁ウラから始まる。歌は上の句は一字下げるが、下の句は下げない。章段ごとに改行されるが、合点や番号は付さない。濁点は二箇所に確認されるのみ。振り仮名は一箇所のみ。後見返に次の墨書がある。

曽根
　政英

印記は「正良」（朱正円印、単辺陽刻）のほか、本学図書館のものがある。昭和五六年一〇月一九日受入。

（11）徒然草　貴／二五一一-二五一二

二巻二冊。四ツ目袋綴装。改装の雷文繋ぎ丹表紙。縦二八・二×横二〇・五㎝。題簽欠。内題・柱刻ともになし。楮紙。字高二四・一㎝。漢字平仮名交じり文で句点が散見される。濁点、振り仮名はない。毎半葉一二行。和歌は、上の句は改行して一字下げ、下の句は下げずに続く地の文に繋げる。匡郭なし。上巻六六丁、下巻五二丁。本文は章段ごとに改行されている。各章段の冒頭に朱筆の合点を付ける。また部分的に本文上部に章段番号を付けたものもある。

百三十　（上・六一ウ「物にあらそはす」）
百三十五（上・六四オ「資季大納言入道」）
百三十六（上・六五オ「くすしあつしけ」）
百三十七（下・一オ「花はさかりに」）

歌の冒頭には「〇」を朱で付ける。上冊の題簽跡の下辺の「共六　よ」、下冊の同じ所の「共六　あ」という墨書を抹消している。摺は必ずしも良好ではなく、上冊五六丁は摺り直しをしている。刊記はない。印記には「残花書屋」

（朱楕円印、単辺陽刻）、「寶玲文庫」（黒長方印、単辺陽刻）、「月明荘」（朱長方印、単辺陽刻）がある。なお、上冊前見返に次の墨書がある。

川瀬氏古活字板の研究
「p525圖389句讀点植版」と少異あり

昭和廿六年九月十七日

おそらく反町茂雄の筆跡と思われる。また添付されている玉英堂書店の値札には次のようにある（横書）。

古活字版　徒然草
慶長中刊、十二行異植字版
残花書屋・宝玲文庫旧蔵
同種本は〝古活字版之研究〟に実践女子大学図書館の一本のみ著録　2冊
\1,750,000

また上冊後見返には、摺り損じの反故を使っているが、文字は判読できるほど鮮明ではない。書名は不明ながら、匡郭の付いた料紙であるから、本書の反故ではあるまい。匡郭の天地は二三・二cm。十二行本。

（12）つれづれぐさ　〇九一・二／九一四・四／一

写一冊。上欠。列帖装。無地の茶色表紙。縦二四・八×横一八・五cm。料紙は鳥の子紙。前見返は原装の鳥の子紙。後は後補の鳥の子紙。外題は墨書の題簽（一一・〇×二・五cm）で中央に「つれ〳〵くさ」とある。内題はない。毎半

葉九行。漢字平仮名交じり文であり、濁点はあるべき字にすべて付いている。句点は朱筆で「、」を付ける。振り仮名はない。全八三丁。章段番号は付けず、改行によって示されている。巻末に慶長一八年（一六一三）、烏丸光広による次の奥書がある。

這両帖吉田兼好法師燕居之日徒
然向暮染筆寫情者也頃泉南亡
羊處士箕踞洛之草盧而談李
老之虚無説荘生之自然且以晦
日對二三子戯講焉加之後将書
以命於工鏤於梓向付夫二三子矣
越句讀清濁以下俾予糾之予座好
其志忘其醜卒加校訂而已湛
□（恐カ）有其遺逸也

慶長癸丑仲秋日

黄門

光廣

これは古活字版と同じものである。すなわち本書は慶長十八年古活字本の転写であると思われる。とはいえ、実見するに、おそらく江戸初期の書写になるのではないかと推測される。なお、前見返に「小柳資□」と墨書されている。また前見返の紙背に次の墨書が見える。

夫覆而明者ハ天之徳也聖主躰レ之善ク守社
稷ヲ仰ヒ而

（13）つれづれ草　九一四・四五／三四

写一冊。五ツ目袋綴装。無地の宍色表紙。縦二六・七×横一九・五㎝。楮紙。外題は墨書の原題簽で左肩に「つれづれ草　全」とある。内題なし。尾題は「つれ〳〵草終」。毎半葉一四行。漢字平仮名交じり文で濁点、振り仮名が少々。句点なし。注文は細字で首書。字高約二〇㎝。全六四丁。章段は番号を付けておらず、ただ行を改めているだけである。首書をいくつか例示する。

・竹のそのふ親王をさして云皇子皇孫のすへ〳〵までと也（第一段）
・遺誡九條右丞相師輔公の作一巻有（第二段）
・西行俗名佐藤兵衛憲清鳥羽院の北面（第一〇段）
・のゝみやいつきに備り玉ふ内親王のいもゐとて御身をきよめ玉ふところ也（第二四段）
・とものみやづこ主殿寮の下司とも禁中の掃除をする役なり伴氏のものとも殿守の下部となる也（第二七段）
・法然は源空也姓は漆間氏みまさかの国福岡の人なり（第三九段）
・せうと兄をいふ又兄弟姉妹をもいふ良覚は公世の弟也（第四五段）
・女孺御所中のさうちさしあふらの役御かうしのあげおろし御でうとのいたしいれなとすかたをあらためすひやくゐにてとりおこなふなり（第一九七段）

終丁には次の署名がある。

懋政（花押）

すなわち江戸後期の岡山藩の池田懋政（文政期の池田家文書に見えるが伝不詳）の旧蔵本である。後表紙紙背には書状案が使われている。おそらく懋政自筆のものだろう。

筆致啓上候

公方様　内府様

大納言様益御機能被成

御座奉恐悦候次貴様弥御堅固

可持御勤既重後御随而在所之

賢鰤一簀巻節聊之御安否

致遣入之候　致承分度

験被下度候恐惶謹言

本文は六三丁ウラで終っており、後見返に兼好和歌の収録歌集を載せる。すなわち『風雅集』（一）、『新千載集』（三）、『新後拾遺集』（三）、『新続古今集』（六）、以上一六首を挙げる。更に兼好法師自讃の歌「空にたつ」「いかにして」の二首を引く。ついで伝兼好の歌「世中を」、高野山蔵自筆短冊という「つたへきく」「かにこほひ」「理即（りそく）たり」「柴のみに」「むさしのや」の五枚を掲げる。また尾題に続き「卜部氏系圖」を挙げる。また後表紙に次の記名が墨書されている。

森　章

藏

印記には「國學院／大學圖／書館印」（朱正方印、単辺陽刻）がある。武田祐吉旧蔵。昭和四〇年五月一日受入。

（14）徒然草　九一四・四五／三〇

二巻二冊。五ツ目袋綴装。卍繋ぎ牡丹唐草文の丹表紙。縦二七・一×横一九・四cm。題簽欠。左肩に「つれ〳〵草上（下）」と墨書。柱題に「つ上（下）」とある。漢字平仮名交じり文で句点、濁点が散見される。振り仮名は多め。半葉行数一一行。本文匡郭は縦二二・一×横一七・五cm。丁数は上冊六八丁、下冊五五丁。各段冒頭に章段番号を付す。上巻終段は一三五段「くすしあつしけ」。下巻は第一段から番号を付ける。終段は一〇四段。刊記は次の通り。

慶安元年
二月日

書入は墨書で、主に本文に片仮名で漢字の訓を付す。特に振り仮名を訂正する例が多い。「有職（ゆうしよく）」の「職」を「ソク」とする（上二オ）。「拍子（ひやうし）」を「ハウシ」と改める（二ウ）。「綾小路宮（あやのこうちのみや）」の「小路」を「ジ」と改める（上六オ）。「九月」に「長月トヨム」と注す（上一七ウ）。「先達（せんだち）」の「達」に「ダツトヨム」と注す（上二六ウ）。また本文の清濁の注記も見られる。「いさや（スム）」（八オ）、「四方拝（ばい）」の「拝」に「はいトモ」と注す（一一オ）。印記には「讀杜／艸堂」（朱正方印、単辺陽刻）、「日高／藏書」（朱正方印、単辺陽刻）、「國學院／大學圖／書館印」（朱正方印、単辺陽刻）がある。読杜艸堂は文部省の官僚で書物蒐集家であった寺田望南（一八四九－一九二九）の印記。武田祐吉旧蔵本。昭和四〇年五月一日受入。

（15）徒然草　請求番号なし　※日本文学資料室

二巻二冊。四ツ目袋綴装。牡丹雷文艶出文様の黄色表紙。縦二六・五×横一七・九cm。外題は後補題簽（縦一九・三×横三・八cm）に「つれ〳〵草　上」と墨書。下冊題簽欠。柱題は「〇つ上（下）」。本文用字は漢字平仮名交じり文。濁点、句点随所にあり。振り仮名なし。半葉一二行。匡郭は四周単辺、縦二〇・七×横一六・四cm。上冊六三丁、下冊五〇丁。章段番号は郭外上段に単辺枠付で表示する。上冊最終段は第一三八段「くすしあつしげ」、下冊の番号は第一段から始まり第一〇九段で終わる。刊記は次の通り。

寛文七丁未暦二月吉日

本文中、損傷部分に小紙を貼って補筆してある。本文中、墨書の振り仮名が散見される。また上冊後表紙左下に「名雲生蔵書」と、下冊同所に「名雲生蔵書」と墨書する。両冊巻頭に「狩野／氏藏」（朱正方印、単辺陽刻）が捺してある。

（16）絵入つれづれ草　九一四・四五／三一

五巻五冊。四ツ目袋綴装。表紙の損傷が甚だしい。縦二二・七×横一六・五cm。原題簽は欠けており、左肩に「つれ〳〵艸一（-五）」と墨書。内題は「つれ〳〵草」（巻一）、「つれ〳〵草巻之二（-五）」。目録題は「つれ〳〵草一（五）ノ目録」。尾題は巻一、五がない。巻二は「二之巻終」、巻三は「徒然草三ノ巻終」、巻四は「つれ〳〵草四之巻終」。柱題は「つれ〳〵」。漢字平仮名交じり文で句点、濁点、振り仮名がある。傍注も随所にある。冠考の注文も同じ。ただし細字。序は六行、本文は一二行。本文匡郭は四周単辺で縦二二・一×横一六・九cm。丁数は第一冊三四丁（うち、序二丁）、第二冊二九丁、第三冊三五丁、第四冊三二丁、第五冊三七丁。挿絵は巻一が八図、巻二が一〇図、巻三が

八図、巻四が九図、巻五が八図。詳細は次の通り。（　）内は挿入箇所の段数。

第一巻①序三ウ（兼好図）、②二ウ（一）、③五ウ（七）、④八オ（九）、⑤一四オ（一九）⑥一九オ（二四）、⑦二五オ（三二）、⑧三〇オ（四二）

第二巻①三ウ上段（五二）、②三ウ下段（五一）、③九ウ上段（六一）、④九ウ下段（六〇）、⑤一三ウ（六八）、⑥一九ウ上段（八〇＊僧）、⑦一九ウ下段（八〇＊武士）、⑧二二オ（八五）、⑨二四ウ（八八）、⑩二七ウ（九三）

第三巻①四オ上段（一〇三）、②四オ下段（一〇四）、③九オ（一〇九）、④一二ウ（一一五）、⑤一八オ上段（一二五）、⑥一八オ下段（一二六）、⑦三一ウ上段（一三四＊鏡）、⑧三一ウ下段（一三四＊合掌）

第四巻①三オ上段（一三七＊花はさかりに）、②三オ下段（一三七＊葵祭）、③六ウ（一四一）、④一二オ（一四六）、⑤一五オ（一五四）、⑥二三オ上段（一七一）、⑦二三オ下段（一七二）、⑧二八オ（一七六）、⑨三一オ（一八四）

第五巻①三オ（一八八）、②八ウ上段（一九五）、③八ウ下段（一九四）、④一二ウ（二〇六）、⑤一六ウ（二一五）、⑥二二ウ（二二一）、⑦二九ウ（二二七）、⑧三七ウ（二四四）

刊記は単辺枠付で第五冊最終丁にある。

元禄三庚午年五月吉日
洛中二條京極寺田与平次梓行

本文欄外に墨書、朱筆の書入が多く見られる。このうち、第一冊序二オモテに次のように記されている。

崇光院御宇観応元年より寛延三庚午まて凡四百年ニ成ル

すなわちこれらの書入は寛延三年（一七五〇）の頃のものだと知られる。

また各冊後見返に次の墨書がある。

改嘉永之弐申五月

〈セ　桐生善五郎

寛延三年頃の書入本を、嘉永二年（一八四九）に求めたということか。内容に関する書入として第三段「玉の巵のそこなき心地」のくだりのものを挙げる。

玉ノ巵ノ無レ当ト云コト或書ニ采国ノ王蒨玉ト申国王能人也能臣下ナク一切トリシマリノナキニヨリ度々国家滅亡セントス其比国ニ王曇ト云ル賢人ノ詞ニ蒨玉モ又王巵無當トワラワレタリ結構ナル玉ノサカツキニソコナキヤウナル物ト也万ニイミシクトモ色好ム人ハイトサウ〳〵シクーノーノーキーコトク也ト

印記には「〈セ桐善〉」（黒長方印、単辺陽刻）、「巌松堂古典部／波多埜扱斯書」（朱長方印、単辺陽刻）、「國學院／大學圖／書館印」（朱正方印、単辺陽刻）がある。武田祐吉旧蔵本。昭和四〇年五月一日受入。

（17）徒然草　九一四・四五／三二

三巻合一冊。五ツ目袋綴装。布目地亀甲文の丹表紙。縦二六・四×横一八・九cm。外題は後補題簽に墨書で左肩に「繪本徒然艸　全」とある。序題は「繪本徒然艸序」、柱題は「畫本徒然艸」。漢字平仮名交じり文で句点なし。濁点、振り仮名を多用する。序文は毎半葉八行、本文は散し書。匡郭は縦二〇・九×横一五・七cm。全五二丁。上巻一八丁、中巻一七丁、下巻一七丁。無刊記。挿絵は巻頭、巻末の図以外はすべて見開き一面を使う。上巻一七図、中巻一八図、下巻一七図。奥に

皇都畫工

文華堂　西川祐信（陰刻「祐／信」）

とある。また、序の奥には

元文戊午のとし冬洛陽文花堂書

とある。すなわち元文三年（一七三八）の奥書である。印記に「國學院／大學圖／書館印」（朱正方印、単辺陽刻）がある。武田祐吉旧蔵本。昭和四〇年五月一日受入。

（18）徒然草　九一四・四五／二八

二巻二冊。四ツ目袋綴。布目地宍色表紙。縦二六・五糎×横一八・八糎。原題簽「徒然草　上（下）」、内題なし。柱刻に「璣上（下）」とある。本文は漢字平仮名交じりで振り仮名、濁点、句読点なし。毎半葉一〇行。匡郭なし。丁数は上冊八七丁（うち、前遊紙一丁）、下・六七丁（うち、前遊紙）。刊記はないが、次の本奥書がある。

文化十二年二月二日書寫終功　　源弘賢

章段は段ごとに改行し、番号は冒頭右肩に細字で添える。下巻冒頭は「花は盛に」の段で第一三四段となっている。本文には少々イ本との校異が記されている。また仮名の随所に漢字を振っている。なお、喉の下部に上冊・下冊それぞれに「九百五十四上」「九百五十四下」とある。上冊前見返し中央及び下冊前見返し中央に「早川千吉郎氏寄贈」という寄贈者の貼り紙が糊付けされている。このうち人名部分は墨書である。早川千吉郎（一八六三‐一九二二）は南満州鉄道株式会社社長。本書はその没後の昭和二年三月三〇日に本館に受入された。印記には「光榮／記念」（朱正方印・単辺・陽刻）のほか、本学図書館のものがある。

2　注釈書類

（9）徒然草句解　請求記号なし　※日本文学資料室

七巻七冊。五ツ目袋綴。無地の紺表紙。縦二七・一×横一九・四cm。双辺枠付の原題簽（一八・四×三・五cm）が左肩にある。「徒然草句解　一（-七）」（第一冊は損傷が酷い）。内題は「徒然草句解巻之一（-七）」、柱刻には「巻一（-七）　（丁付）」とあって、書名はない。本文匡郭は縦二二・六×横一七・三cm。本文は毎半葉一〇行、注文は双行。本文は漢字平仮名交じり文。句点、濁点を多用し、振り仮名は片仮名。注文には句点、濁点、振り仮名がない。丁数は第一冊四三丁（うち、序二丁）、第二冊三四丁、第三冊三六丁、第四冊三九丁、第五冊三六丁、第六冊四〇丁、第七冊四〇丁。章段番号は各段冒頭右肩に黒地白抜で番号を打つ。ただし第一段はない。上巻全一三八段、下巻は「花はさかりに」の段に始まり、全一〇九段。刊記は次の通り。

寛文五乙巳年孟秋吉祥日
風月庄左衛門開板

参考に、注釈に用いた和書名を挙げる。漢籍・仏典は略す。

吾妻鏡・和泉式部家集・宇治拾遺物語・延喜式・奥義抄・大鏡・河海抄・下学集・花鳥余情・菅三品の詩・禁秘抄・金葉和歌集・公事根源・元亨釈書・源氏物語・顕昭拾遺抄・古今和歌集・後拾遺和歌集・後撰和歌集・拾遺風体抄・拾芥抄・職原抄・新古今和歌集・新千載和歌集・新後拾遺和歌集・新拾遺和歌集・新続古今和歌集・撰集抄・徹書記・日本書紀・後江相公の詩・風雅和歌集・風土記・発心集・本朝皇胤紹運録・本朝文粋・枕草紙・万葉集・八雲御抄・梁塵秘抄・六百番歌合・和名集

墨書が少しある。第一冊前見返右下に「小川かめや」と墨書。「林之／圖書」（朱正方印、陰刻）、「後／素」（朱正方印、陰刻）の印記がある。また、第三冊後見返に次のような版本の反故が使われている。

不覺未笑會一座匙禮請問吾云吾有同行在華亭〇上
是法身會云法身無相云如何是法眼會云法眼無〇吾
後至哀口ノ竹林寺ニ〇夾山ノ會
一小舟ヲ曽テ

なお、古書目録の切抜が添付されている。「173徒然草句解　七巻　高階楊順　寛文七年風月庄左衛門刊　欄外少墨汚れあり　大本　七冊　六三、〇〇〇」。

（10）徒然草諺解　九一四・四五／N四八　※日本文学資料室

五巻五冊。五ツ目袋綴装。無地の紺表紙。縦二六・八×横一九・一cm。双辺枠付の原題簽（縦一九・三×横三・八cm）で左肩に「徒然草諺解　一（-五）」とある。「徒然草諺解　巻二（-五）」。各巻冒頭にあるが、ただし巻一には記されていない。「徒然草諺解巻之一（-五）終」。末尾の「終」は巻一、三、五に付き、二、四にはない。柱題「徒然一（-五）」漢字平仮名交じり文。濁点、句点あり。ただし序文に句点はなく、濁点もわずか。注釈文は漢字片仮名交じり文。濁点あり、句点なし。半葉行数は序が一二行、本文が一〇行、首書が二〇行。本文匡郭は四周単辺で、縦二四・六×横一六・八cm。丁数は第一冊が三五丁、第二冊が三四丁、第三冊が三〇丁、第四冊が二八丁、第五冊が四一丁。刊記は双辺匡郭に囲まれて次の通りにある。

寛文九己酉年林鐘上旬

猪熊通四條上ル町　中村五郎右衛門開板

第一冊後見返に旧蔵者の墨書あり。

光明院成徳院　良範求（摩消）

第二冊以降には切り取った痕がある。おそらく右同様の墨書があったのだろう。書入は多い。墨書、朱筆、枚挙に遑がない。幾つか例を挙げる。

・大方ハ月ヲモ愛シコンヤコノツモレハ人ノ老トナルモノ伊勢物語ニアリ（第一段の「愛敬」）

・世間の道心は不幸故に世をおもひたる人は待事有か如し如何となれは其不幸にむかふほと心に満足する事あらは遁世の心さむる事もあるへし不幸故に世を捨たれはなり徒事もなき人は唯何となく世を離れてたゝ閑居を楽みとしたる物也かやうならん社遁世の身にはあらまほしきと也（第五段の「さるかたにあらまほし」）

・一年ニ而モ千万歳ヲ同シ事成に不満足ヲモハゝ北州之千年ヲ持トモ一夜之夢之如ハカナカル可トナリ維摩経曰度二千百劫一猶キ弾指一也（第七段の「住はてぬ世」）

・如是生ヲタノシマスシテ死ニアタツテヲクルゝ処ノ人ハマコト三日ノ存生ハ万全ヨリモヲモク死ト云モノハ常ニ不恐シテカナハヌモノジヤト云コトハリヲハ云ルマシキト也（第九三段の「此ことはりあるべからず」）

・君か出ヲ有明ノ出ルニタトヘテ云ソ如是恋ヲスルモ我身ノ有様ニ似合ヌ人ハセヌガマシシヤト也（第二四〇段の「有明の空も。我身ざまに忍ばるべくも」）

次のように注釈を記した小紙が数枚挿んである。

・女色の迷ひは外の異見には中〳〵やめかたき物なり我と合点敬警可致也朱文公ノ自警ノ詩云十年浮ンテ海一身軽シ帰テ対シテ梨渦ニ却テ有情世上無レシ如ハ二人欲ノ険ケンニ一幾ハク人カ到テ此ニ誤マル平生ヲ是宋ノ胡澹菴カ忠義有シモ黎倩レウセイ（ト脱カ）イヘル女ヲ見テ梨頰生ケウス微渦ヲ一と愛シタルニテ朱子ノ自警給ヘル詩也（第八段）

・自からにいふに心可付也外よりの警の分にて中〳〵根か切るゝこと無し我心より嗜ねは也恐るへくとは色欲を恐也つゝしむとは我心諱む也（第八段）

・此鳥ノ鳴声ハ物ヲ扣程ニ聞ユ故ニタ、クト云ソ（第一九段）

印記に「痩松園文庫」（朱長方印、双辺陽刻）、「聖」（黒正円印、単辺陽刻）、「成徳院」（黒長方印、単辺陽刻）のほか、本学図書館のものがある。痩松園文庫は心理学者黒田亮（一八九〇‐一九四七）の蔵書である。

（11）徒然草諺解　河野文庫／一七四七

五巻五冊。四ツ目袋綴装。無地の鼠色表紙（第一～五冊の前表紙、第二冊の後表紙）、無地の青表紙（第一、三、四、五冊の後表紙）。縦二七・〇×横一九・〇㎝。墨線の双辺枠付の後補題簽で左肩に「徒然草諺解　一（‐五）」とある。本文匡郭は四周単辺で縦二四・二×横一六・八㎝。この他の書誌事項に関しては同版の（10）参照。墨書もしくは鉛筆による書入がわずかにある。朱引も若干ある。なお、第五冊後見返に写本の反故が用いられている。裏側から透けて見えるものなので誤字の惧れがあるが、判読できる範囲を左に掲げておきたい（■は判読不能文字）。

セイヱイ正久ト二人アリ又其日ニ三才ノ子ニ■一人アリ

正久セイヱイカ三才ノ子ヲイタキ山ニカクレイルセイヱイ

長■ニツカヱツイニ天下トル

刊記は双辺枠付で第五冊最終丁にある。

寛文九己酉年林鐘上旬
猪熊通四條上ル町
中村五郎右衛門開板

印記には「紫雲／文庫」（朱正方印、単辺陽刻）、「河野省三博士記念文庫」（朱長方印、単辺陽刻）がある。平成五年三月三一日受入。

（12）徒然草諺解　佐／一二四〇

五巻五冊。四ツ目袋綴装。無地の紺表紙だが損傷が甚だしい。縦二六・八×横一九・一cm。原題簽欠。第四、五冊のみ後補題簽が左肩にある。匡郭は縦二二・一×横一六・九cm。基本的な書誌事項は（10）参照。刊記は双辺枠付で第五冊最終丁にある。

延寶五巳丁年九月吉辰
中村七兵衛板行

第四冊後見返に「主鳳尾窗羽根留」、第五冊後見返に「主倚松堂」と墨書。第一冊に朱筆で少し書入れがある程度。各冊巻頭に「伯爵佐／佐木家／藏書印」（朱正方印、単辺陽刻）の印記がある。すなわち佐々木高行旧蔵本である。

（13）徒然草大全　九一四・四五／Ta二八　※日本文学資料室

上下二巻二冊。五ツ目袋綴装。無地の紺表紙。縦二六・三×横一八・七cm。外題は双辺枠付の原題簽（一七・五×四・

○㎝）で左肩に「徒然草大全諸抄決談口傳註入上一（-下六）」とある。内題はない。尾題は各冊巻末左下に「決談終」などとあるほか、第七冊巻末に「徒然草上巻ノ決談終　第七終」とある。そして最終冊には「つれ〳〵草抄全部」とある。柱題は「決（-下六）」。序は一三行で、本文は一七行。注釈部分は二字下げて記されている。章段は欄外上部に枠を設けて数字を記す。書入は朱筆で随所に見える。一部は墨書。以下にいくつか例示する。

・源氏須磨ノ巻ニ色々ノ紙ヲツギツヽ手習ヲシタモウトアリ此等ヲ本トシ書出セルモノナリ（序段の「つれ〳〵なるまゝに」）

・イデヤ万葉ニ先ノ字ヲヨマセタリ發端ノ處ノヲク字也百人一首ニ有馬山イナノサヽ原風吹ハイテソヨ人ヲ忘レヤハスル（第一段）

・舍人凡ソ随人ノ發ル處ハ聖徳太子守屋ノ逆臣ニヲソハレ玉フトキノ甲斐ノ黒駒ニ乗シ落サセ玉フトキ秦ノ河勝一人御身ニ随ヒ供奉シ奉リケルヨリ始ルトソ（第一段）

・有職モノ知ノコトアリトヨメリ禁中故実ワキマヘ知ルコト也（第一段）

・公事ヤケト訓ス禁中ノ年中行事ナト指テ云爰ニ一説アリ如右見レハ有職公事同事也此説ハ有職ニト句ヲ切テ公事ノ方人ト下ヘヨム也有職ヲ明ラメテ公事ノ方人ノ鏡手本トナランコソ願ヒケレト也未知是ヤ否（第一段）

刊記は二つあり、第一に最終丁に双辺枠付で次のようにある。

延寳五年
丁巳九月吉日

なお、延宝五年中西九郎左衛門版が本学図書館に所蔵されており、前稿に解題を載せている（2-（5））。次に後

見返に単辺の枠の中に次のようにある。

延寳六戊午年初秋上旬
五條橋通塩竈町
丁子屋長兵衛開板

(14) 徒然草諸抄大成　河野文庫／一七四八

二〇巻二〇冊。四ツ目袋綴装。無地の紺表紙。縦二六・五×横一九・二cm。外題は双辺枠付（一九・二×四・三cm）の原題簽で左肩にある。ただし第一冊はほとんど剥がれて痕跡のみ。

「つれ〳〵草諸抄大成二（三、五、六、八、九、十一‐十四、十六、十七、十九、二十）」

「徒然草諸抄大成四（七、十、十五、十八）」

序題は「徒然草諸抄大成凡例（ツレ〳〵グサショセウタイセイハンレイ）」、目録題は「徒然草諸抄大成巻第一（‐十九）目録」。なお、第二巻には「徒然草諸抄大成巻二目録（ツレ〳〵グサショセウタイセイケンモクロク）」と振り仮名が付いている。尾題はなが、『徒然草』本文の上巻末尾には「徒然草上巻之終」とある（第一一巻最終丁）。下巻にはない。柱題は「徒然大成巻一」。本文匡郭は縦二三・〇×横一七・〇cm。上段に冠考（八・三cm）を、下段に本文（一四・六cm）を配する。本文は太字で毎半葉一〇行、注は細字双行。冠考は細字二〇行。漢字平仮名交じり文で、冠考の注文は漢字片仮名交じり文。丁数は下記の通り。

巻一　三二丁
巻二　三六丁
巻三　三三丁

巻四　二七丁
巻五　三二丁
巻六　二八丁
巻七　三四丁
巻八　二四丁
巻九　二六丁
巻一〇　二六丁
巻一一　三一丁
巻一二　三三丁
巻一三　三四丁
巻一四　二五丁
巻一五　二四丁
巻一六　二七丁
巻一七　二六丁
巻一八　二九丁
巻一九　二三丁
巻二〇　一九丁

引用した『徒然草』注釈書類の一覧が挙がっており、書名の参考にもなるものだから、ここに掲げておきたい。

寿命院抄　二巻　也足軒ノ奥書
野槌抄　十四巻　林道春作
貞徳抄　二巻　長頭丸作
同慰草　八巻　是徒然草の大意をしるすなり
古今抄　八巻　大和田気求作
盤斉抄　十二巻　踏雪作
句解　七巻　高階楊順
諸家聞書　三巻
文段抄　七巻　北村季吟作
諺解　五巻　山岡元憐作
大全　十三巻　高田宗賢作
参考抄　八巻　恵空和尚作

本文中には朱筆で書入が多くみられる。合点、傍点、傍線などいろいろあるが、いずれも近代のものらしい。いくつか例示する。

・「心に」は「心の内に」なり。うつりは「移」にて変化することなり「映」の義にあらず、「ゆく」といへるにてしるべし。諸板誤れり。（序段の「心にうつりゆくよしなしごとを」）
・第一段は個人の脩養を論説したるものに外ならず。（第一段）
・コノ段ヲ解クニハ第七段ヲ参照スベシ。（第二段）

・「ふつゝか」伴信友ハしたゝかの意にやといへり。今案ずるに、不手際とか、よいかげんになどいふところか。（第五段の「ふつゝかに思ひとりたるにはあらで」）

また「徒然草第十二段の文章解剖」と題する小紙が挿んである。

上の友
同じ心ならむ人と、しめやかに
物語して、をかしき事も、いひ
慰まんこそ、これしかるべきに、

下の友に対する不愉快
（さる人あるまじければ、
露たがはざらむと、對ひゐ
たらむは、独なる心地や
せむ。）

上の友に対する愉快
（互に、いはんなどの事をば、げ
にと、聞くのである物から）、

デアルカラ

下の友
いさゝか違ふ所もあらん

人こそ、我はさやはおもふ
などあらそひにくみ、
（め。）トアリタシ

上の友に対する愉快
（さるから、さぞとも、うちか
たらはゞ、つれ〳〵慰まめと
おもへど）、

中の友
げには、少しかこつかたも（不足アル場合ニハ）、
我とひとしからざらむ人
は、大方のよしなしごと、い
はむほどこそあらめ。（ま
めやか（友との比較）の心の友には、遥
かにへだゝる所のあらぬ
べきぞわびしきや。）

右の文章に説ける友の、下の友といふは、世間一般の交際をいふなり。悪友の義にはあらず。上の友（交友の理想を、しばらく、尓か名く）といへるに対して、かりに、

この名を附せるのみ。中の友といふは全く、有るに非ず、上の友と、下の友を述べ、世には、下の友の交り多きものなれば、まづ、大方はかくの如く交際して、争はぬやうにせよと、心得を述べたる迄なり。

兼好が、あきらめたる決論なり。されば、始めに打過して、上の友との比較を添へて、歎じたる也。

なお、第一〇冊巻末に三宅観潤『中興鑑言』を引用する。刊記は第二〇冊巻末にある。

貞享五戊辰五月吉日板行

武村新兵衛
京書肆　吉田四郎右衛門
谷口七左衛門
田中庄兵衛

印記には「上　さいとう」（朱長方印、単辺陽刻）、「信州／上田／塚長／塚原郷／伊勢山」（朱長方印、単辺陽刻）、「〈二　土徳／上田／カヂ町」（朱正円印、単辺陽刻）、「河野省三博士記念文庫」（朱長方印、単辺陽刻）などがある。平成五年三月三一日受入。

（15）首書徒然草　梧陰文庫／五七一

五巻五冊。四ツ目袋綴。無地の紺表紙。縦二二・九×横一六・〇cm。外題は双辺枠付の原題簽（一六・九×三・五cm）

で左肩に「書首つれ〳〵草　絵入一（-五）」とある。ただし書名は「つれ〳〵くさ」「徒然艸」など各冊表記が異なる。内題〉は「つれ〳〵草」（巻一）、「つれ〳〵草巻之二（-五）」。目録題は「つれ〳〵草一（-五）ノ目録」。尾題は「二之巻終」（巻二）、「徒然草三（四）ノ巻終」とあり、巻一、五にはない。柱題は「つれ〳〵草序」「つれ〳〵一（-五）」。本文匡郭は縦一九・六×横一四・二cm。本文の丁は上段の冠考部分と下段の本文部分とに分かれ、間に線が引かれている。上段は縦七・七cm、下段は一一・九cm（本文一オによる）となっている。ただし章段によっては冠考・本文間の堺線を部分的にはずし、大部の本文なり首書なりを補う工夫をしている。本文は十二行、冠考は二〇行。漢字平仮名交じり文で記され、句点、濁点を多用する。振り仮名は片仮名表記である。丁数は巻一が三五丁、巻二が三〇丁、巻三が三六丁、巻四が三四丁、巻五が三九丁。挿絵は巻一が八面八図、巻二が七面一〇図、巻三が五面八図、巻四が七面九図、巻五が七面八図。面と図との数が合わないのは、部分的に上下二段に異なる挿絵を載せているからである。刊記は第五冊最終丁本文末尾に次のようにある。

元禄三庚午年五月吉日

大坂心斎橋安土町　鳥飼市兵衛

第一、二、四、五冊の前後見返に広告がある。そのうち、次の三冊の後に書肆名が挙がる。

浪花書肆心斎橋南へ三丁目　吉文字屋市兵衛版（第一冊）

寛政訂正改之　吉文字屋市左衛門　板（第四冊）

大坂心斎橋南四丁目

吉文字屋市兵衛（第五冊）

すなわち、本書は元禄三年版を寛政年間に再版したものであることが知られる。なお、広告に掲載された書名を挙

げる。

〈第一冊前〉経典読法早指南・改正道中行程細見記・筆道稽古早学文・経学祓錦国字解・医療衆方規矩大成

〈第一冊後〉早見書状大全・歌道早指南・急用間ニ合即座引・国宝節用新増大全

〈第二冊前〉人家万宝大益重法之書・錦嚢智術全書・字典年中重宝選・経験医療手引草・算法智恵海大全・和漢算学図会

〈第四冊後〉料理筌・丸散手引草・天満宮天神御鬮絵抄

〈第五冊後〉「歌道書品目　定栄堂」として、古今夷曲集・歌道人物志・歌択秋寝覚・同増補・名数和歌選・岩躑躅・古今和歌集・歌仙二葉抄・連歌苧手巻・伊勢物語月岡丹下画・女芸文三才図会・連歌至要抄・堀川艶書合・つれ〳〵草頭書・歌林詞葉二度結・藻塩袋が挙がる。他に、錦嚢万代宝鑑・智恵枕・錦嚢妙薬秘録・錦嚢秘巻が挙がる。

このうち、本書を示す「つれ〳〵草頭書」には次のような説明文を添える。

つれ〳〵草頭書　　全五冊

註本多しといへども正理を解つまびらかに能く事を分書たる書なり

(16) つれづれ草絵抄　九一四・四五／Y八六

二巻二冊。五ツ目袋綴。陰陽雪輪文の濃紺表紙。縦二三・八×横一六・七cm。外題は双辺枠付の原題簽（一七・八×三・八cm）で左肩に「改正頭書つれ〳〵艸繪抄　上（下）」とある。柱題は「つれ〳〵上（-下）」。本文匡郭は縦二三・八×横一六・七cm。毎半葉一三行。漢字平仮名交じり文で句点、濁点、振り仮名を多用する。上巻六四丁、下巻五〇丁。挿絵は第一冊扉絵の兼好像のほか、諸段の本文頭部に挿絵（全三三九図）が配されている。すなわち上巻は一八二図、

下巻は一五七図を収める。兼好図「兼好法師徒然草作圖像」には次の歌が散し書で記されている。

世の中を
わたりくらへて
今そしる
阿波のなるとは
浪風も
なし

刊記は最終丁に著者名「雒陽處士艸田斎寸木子三径圖讃」に続き、

元禄四年辛未初春日　書林

とある。また後見返に

京師三條通升屋町
御書物所
出雲寺和泉掾

とある。すなわち本書は元禄四年版の出雲寺和泉掾による後印本ということである。本文に書入はないが、両冊に「此ぬし田原うじ」「此ぬし田原」と墨書されている。「田／原」（朱円印、単辺陽刻）、「田原／氏」（朱正方印、単辺陽刻）のほか、本学図書館のものなどがある。神田神保町の沙羅書房から平成二三年二月一日受入。同店目録には「元禄四年刊　絵入　原装　美本　艸田斎寸木子三径圖　二冊一五七、五〇〇」と記載されている。

（17）つれづれ草絵抄　河野文庫／一七五〇

二巻二冊。四ツ目袋綴。陰陽雪輪文の濃紺表紙。縦二三・三×横一六・四cm。外題は双辺枠付の原題簽で左肩に「改正頭書つれ〳〵艸繪抄　上（下）」とある。柱題は「つれ〳〵上（-下）」。本文匡郭は縦二三・八×横一六・七cm。無刊記。他の書誌事項については（14）参照。上下両冊前見返に次の墨書の書入がある。

共二本
大正五年五月二十日求之
吉田素儁

また下冊後表紙にも次の墨書の書入がある。

壽南由

印記には「信／文」（朱正方印、単辺陽刻）、「吉田／藏書」（朱正方印、単辺陽刻）、「河野省三博士記念文庫」（朱長方印、単辺陽刻）がある。平成五年三月三一日受入。

（18）つれづれしののめ　河野文庫／一七五〇

二巻二冊。四ツ目袋綴装。無地の紺表紙。縦二二・四×横一六・三cm。題簽欠。ただし下冊左肩に「つれ〳〵しののめ増穂残口著下」と墨書されている。内題は「つれ〳〵艸」。尾題は「つれ〳〵しのゝめ　上（下）終」。柱題は「〇つれ〳〵上（下）」。漢字平仮名交じり文で句点、濁点、振り仮名が少々付けられている。毎半葉七行。本文匡郭は四周単辺で縦一七・八×横一三・三cm。丁数は上巻二一丁、下巻一八丁。章段の番号は匡郭の上部に囲み文字として示されている。刊記は次の通り。

享保四己亥年七月吉日　大坂久太郎町　瀬戸物屋傳兵衛
大坂尾崎町　武川善右衛門

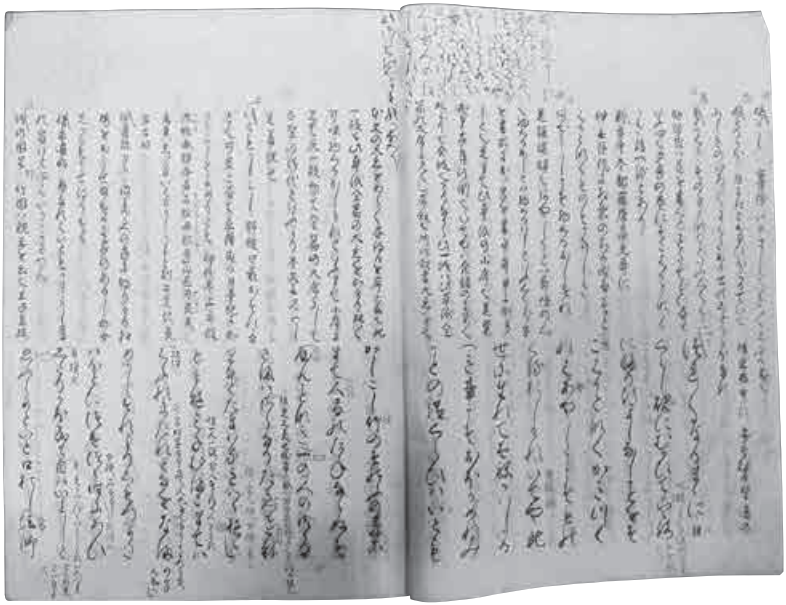
印記には「河野省三博士記念文庫」（朱長方印、単辺陽刻）があるのみ。平成五年三月三一日受入。

（19）徒然草注釈　日文資／九一四・四五／Y八六　※日本文学資料室

写二冊。五ツ目袋綴装。無地の紺表紙。縦二八・九×横一九・六cm。料紙は斐紙。毎半葉一一行。漢字平仮名交じり文で句点なし。ただし朱点を付ける。濁点はわずかにあり、朱点も少し付ける。振り仮名も墨書、朱筆ともに少しある。丁数は上冊一五三丁、下冊一一七丁。各章段冒頭に朱で合点と番号を付す。本文は三段組になっている。下段は本文で、一一行書。中段は注文。上段は注釈の追加で、空白が目立つ。章段は朱筆で合点と番号を記す。注釈には多くの記号を用いている。四三種の記号を使い分けているが、それぞれの出典については今後の課題である。奥書はない。印記には「泉／書屋」（朱正方印、単辺陽刻）、「國學院／大學図／書館印」（朱正方印、単辺陽刻）などがある。平成二〇年七月一日受入。

（20）徒然要草　河野文庫／一七五二

七巻五冊。五ツ目袋綴装。卍繋ぎ文の紺表紙。縦二六・一×横一八・五cm。扉題に「厭求上人著／潮音上人校／全七冊」とある。当初七巻七冊であったものを五冊に合したか。双辺枠付の原題簽で左肩に「徒然要艸　巻之一（-五）」



（19）徒然草注釈　上巻第一段

（19）徒然草注釈　下巻巻頭「花はさかりに」

とある。序題は「徒然要艸序」。目録題は「徒然草　壱（-七）」。尾題はないが、最終巻末尾に「大尾」とある。柱刻は「徒然要草　巻之一（-七）」。漢字平仮名交じり文で句点、濁点、振り仮名がある。毎半葉一二行。本文匡郭は四周単辺で縦二一・五×横一五・五㎝。丁数は第一冊三九丁、第二冊七五丁、第三冊三八丁、第四冊七五丁、第五冊三九丁。章段番号は匡郭上段に記す。本文には朱筆で合点、傍線などを引く。序は二種あり、一つは沙門潮音のもの、もう一つは自序。自序では勢州豊原の里天王山に住した折に書いたとある。すなわち現在の三重県松坂市豊原町の天王山を指す。また潮音の序文の末は次の通り。

天明三癸卯年春三月
京師前住大雲院沙門潮音於
洛東岡崎艸菴書

天明三年（一七八三）の序で、大雲院は下京区寺町にあった浄土宗寺院で、現在は東山区祇園町に移転している。刊記は次の通り。

天明三年癸卯春三月吉旦
江戸日本橋南一丁目　須原茂兵衛
大坂心斎橋南二丁目　大野木市兵衛
京都堀川通錦小路上ル町　西村市郎右衛門
書林

同一条通麩屋町東入町
山本長兵衛
同三條通烏丸東へ入町
森島吉兵衛

扉題の脇にも次の刊記がある。

京師書鋪修文堂壽梓

印記には「紫雲／文庫」（朱正方印、単辺陽刻）、「沼藏／書辞」（朱正方印、単辺陽刻）、「沼印」（朱楕円印、双辺陽刻）、「河野省三博士記念文庫」（朱長方印、単辺陽刻）がある。平成五年三月三一日受入。

（21）兼好法師家集　九一一・一四八／Y八六／一

二巻二冊。四ツ目袋綴装。無地の紺表紙。縦二四・八×横一六・一cm。単辺枠付の原題簽「兼好法師家集　上（下）」（一六・〇×三・〇cm）を左肩に貼る。「兼好法師家集上（下）」。柱題はなく、「上（下）　（丁付）」とあるのみ。匡郭は縦一六・七×横一一・六cm。半葉行数八行。本文は漢字平仮名交じり文。上巻四〇丁、下巻二八丁。奥書は次のようにある。

写本云
此一冊者兼好法師自撰家集草
本歟而彼集不流布于世如今
幸覧之云秀謌云能書奇観

何者如之不堪感悦聊誌之

寛永第三暦初秋上旬

長秋員外監通村判　　」下二三オ

ついでそのウラに次の奥書が記されている。

此一冊者右以中院前内府通村公

自筆之本写之墨滅假名遣随

写本而已　　」下二三ウ

また林鵞峰による寛文四年（一六六四）の跋文の後に、次の刊記がある。

洛陽今出川

林和泉掾板行

印記は本学図書館のものがある。昭和八年十月十二日受入。

（22）兼好法師伝記考証　貴／二四三三

五巻一冊。四ツ目袋綴装。布目地の白色表紙で樹上の鳥の図などを大きく描く。縦二二・〇×横一五・三cm。外題欠。扉題は「兼好法師傳記考證／附しのふやるものかたり」。目録題は「兼好傳考證巻之一（-五）目録」。尾題は「兼好傳考證巻一（-五）終」。柱題は「兼好傳考證巻之一（-五）」。漢字平仮名交じり文で句点が随所にある。濁点を多用する。振り仮名はほぼすべての漢字に付す。毎半葉八行。本文匡郭は四周単辺で縦一七・〇×一三・二cm。全一〇二丁。自序の末に「天保六年十月十五日　　野之口隆正」とある。挿絵は全二〇図。巻ごとの詳細は次の通り（振り仮名は省く）。

巻一①肖像一オ「兼好法師肖像」
②二ウ－三オ「兼好／父兼顕に／佛の初めを問図」
③六ウ－七オ「兼好／萩の戸にて／怪鳥をいる図」
④一〇ウ－一一オ「兼好ねはん／ゑにて女に／いどまるゝ図」
⑤一三ウ－一四オ「兼好／はなの下にて／雨にあふ図」
⑥一五ウ－一六オ「兼好／阿波のなる／戸にて／風にあふ図」
巻二①二ウ－三オ「金澤閑／居のづ」
②六ウ－七オ「為兼卿の囚れを／見て資朝卿うら／やむ圖」
③一六ウ－一七オ「木曾の庵にて／國守のたか狩／を見て／みやこへ帰る圖」
巻三①五ウ－六オ「中宮小弁／兼好法しに／内勅を傳る圖」
②九ウ－一〇オ「兼好／顕家卿に／あふづ」
③一三ウ－一四オ「顕家卿／利根川にて／足利勢と戦／給ふ圖」
巻四①四ウ－五オ「兼好あべのに／蓆を織づ」
②八ウ－九オ「師直／平家を／きく圖」
③一二ウ－一三オ「侍従／塩谷の北方に／艶書を傳る圖」
④一七ウ－一八オ「塩谷が／妻子自害／の圖」
巻五①三ウ－四オ「嘉言」「兼好よしの／やまへ登づ」
②六ウ－七オ「粥をにて／飢人を／すくふ」

③一〇ウ・一一オ「宇都宮公綱薬師寺公義／けんかうの草庵をとふ」
④一六ウ・一七オ「悪徒けんけん塚を／あばく圖」「嘉言」

「嘉言」とは絵師村田嘉言の署名である。刊記は次の通り。

于時天保八丁酉發行

江戸　丁子屋平兵衛
田中　長藏
京　和泉屋吉兵衛
戎屋市右衛門
大坂　藤屋　彌兵衛
藤屋　善七

書肆

また扉題の左脇にも次の書肆名が挙がる。

浪華書林　北尾春星堂藏

巻末に「野之口隆正大人著述近刻書目」が載る。書名だけ挙げる。

通畧延約辨・ことばのまさみち・結辭對格・人為天然分合對格・合語格・あかそこの辨・助辭例證・正誤うたことば・鼻くらべのさうし・歌日記・兼好傳考證・候録・神典窮理説・さきはふくにぶみ・神道受用考證・入學擧要・冠辭考附説・語格直言

このうち『兼好傳考證』の説明文は次の通り。

これは兼好法師のおひたちよりくはしく古書に考かへ南朝の忠臣なるよしをあかされたり

後表紙には次の墨書がある。

京都武者小路
小川東江入
吉岡屋米店

前見返右上に一誠堂の「ISSEIDO／東京神田」という書票が糊付してある。また帙には「2000.2.24」とスタンプが捺してある。

(23) 兼好問答　河野文庫／一七五一

写一冊。四ツ目袋綴装。無地の水色表紙。縦二三・五×横一六・八cm。料紙は楮紙。外題は四周双辺枠を摺った題簽で、左肩に「兼好問答　完」と墨書している。内題はない。毎半葉一四行。漢字平仮名交じり文で句点はない。濁点、振り仮名はある。朱点、朱引も散見される。全三四丁。本作品は西念なる僧と兼好法師の幽霊との問答から成っている。しかし、兼好の正体は、実は隠居の兼好に仕えた飯炊き坊主の幽霊だったというオチが付いている。本文の随所には三字下げで注釈を付けている。明和二年（一七六五）の跋文は次のようにある。

降續きぬる五月雨の初敷に下駄は菌を踏欠き
唐傘（からかさ）の骨四鳥の別れ是非なく蟄居せしが
平生人に厭憎まるればいかな犬さへ訪も来ず
寂々寥々暮し方なさの餘り隣なる隠居の許へ
虱野郎を走らかし常はきらひなれども何ぞ

かな本にてもかし給へといゝやりたれば徒然草
諸抄大成といふをもたせこしぬ初巻をざつと
通覧しけるにも少し穏ならずおぼへし事の
一ツ二ツあるやいなや例の放屁魂一寸もこらへ
得ず持病の気違ひ忽差起り側に有つる
硯引よせ筆の軸もくだけよと握りつるやわら腰
はたし眼に成てはしり鳥の糞ひるごとく廣紙
四五枚書ちらすうちにはち切るほどふくれし
腹の皮いつともなしに本のごとくへこみたるは是即
気鬱のひり尽してもはや背中をうたれとも
羽をひろげべき勢ひもなきにひとしからん歟

明和二酉の年　白眼散人

印記には「白川之藩／五十幡藏書」（朱長方印、単辺陽刻）、「斎藤／文庫」（朱楕円印、双辺陽刻）、「紫雲／文庫」（朱正方印、単辺陽刻）、「河野省三記念文庫」（朱長方印、単辺陽刻）などがある。斎藤文庫とは明治期の九代目雪中庵斎藤雀志（一八五一‐一九〇八）のコレクションである。平成五年三月三一日受入。

以上、本学所蔵の『徒然草』関連資料を紹介した。以下に書目を挙げる。

1　『徒然草』諸本

(1)　つれ〳〵草　元禄七年後印本　九一四・四五／四七
(2)　つれ〳〵草　元禄一六年刊本　九一四・四五／三五
(3)　新板絵入つれづれ草　元禄一六年刊本　九一四・四五／五〇
(4)　つれ〳〵草　元文二年刊本　九一四・四五／四六
(5)　新板繪入つれ〳〵草　元文五年版他合本　九一四・四五／三三
(6)　つれ〳〵草　享保七年刊本　九一四・四五／四五
(7)　絵入新板つれ〳〵艸　九一四・四五／四三
(8)　大字新板つれ〳〵草　寛延四年刊本　九一四・四五／四九
(9)　新板繪入つれ〳〵草　無刊記絵入本　九一四・四五／四八　（以上四号）
(10)　徒然草　下　貴／一七二〇
(11)　徒然草　貴／二五一一-二五一二
(12)　つれづれぐさ　〇九一・二／九一四・四／一
(13)　つれづれ草　九一四・四五／三四
(14)　徒然草　九一四・四五／三〇
(15)　徒然草　請求番号なし　※日本文学資料室
(16)　絵入つれづれ草　九一四・四五／三二

(17) 徒然草　九一四・四五／三二
(18) 徒然草　九一四・四五／二八

2　注釈書類

(1) 徒然草寿命院抄　古活字本　貴重書／五九四－五九五
(2) 徒然草鉄槌　四巻二冊　九一四・四五／二六／Ⅱ
(3) 徒然草文段抄　九一四・四五／Ki六八／一
(4) 徒然草諺解　九一四・四六／N四八／一
(5) 徒然草大全　九一四・四五／Ta二八／一
(6) 徒然草参考　九一四・四五／四一
(7) 徒然草直解　九一四・四五／O－四四／一
(8) 徒然草諸抄大成　九一四・四五／A八四　（以上四号）
(9) 徒然草句解　請求記号なし　※日本文学資料室
(10) 徒然草諺解　九一四・四五／N四八　※日本文学資料室
(11) 徒然草諺解　河野文庫／一七四七
(12) 徒然草諺解　佐／一二四〇
(13) 徒然草大全　九一四・四五／Ta二八　※日本文学資料室
(14) 徒然草諸抄大成　河野文庫／一七四八

(15) 首書徒然草　梧陰文庫／五七一
(16) つれづれ草絵抄　九一四・四五／Y八六
(17) つれづれ草絵抄　河野文庫／一七五〇
(18) つれづれしののめ　河野文庫／一七五〇
(19) 徒然草注釈　日文資／九一四・四五／Y八六　※日本文学資料室
(20) 徒然要草　河野文庫／一七五二
(21) 兼好法師家集　九一一・一四八／Y八六／一
(22) 兼好法師伝記考証　貴／二四三三
(23) 兼好問答　河野文庫／一七五一

【付記】参考に、2-（7）『徒然草直解』に引用される和書名を掲げておく。

〈ア〉吾妻鏡・有仲集・伊勢物語・同真字本・一言芳談・一宮記・宇治拾遺物語・宇治大納言物語・歌枕名寄・詠歌大概・延喜式・奥義抄・大鏡

〈カ〉膾余雑録・河海抄・下学集・楽技伝・餝抄・花鳥余情・兼邦記・鎌倉物考・歌林良材・菊亭右大臣書札・吉備大臣入唐絵詞・行者用心集・玉葉和歌集・禁秘抄・金葉和歌集・近来風体集・旧事記・公事根源・兼好集・源語秘訣・源語類聚・源氏の抄・源氏物語・顕昭拾遺抄・建礼門院右京大夫集・江次第・古今栄雅抄・古今和歌集・古語拾遺・古今著聞集・古事記・古事談・後拾遺和歌集・後撰和歌集・御鎮座記

〈サ〉西宮記・催馬楽・狭衣物語・讃岐典侍日記・山家集・詞花和歌集・史館茗話・職員令・四季物語・七玉集・沙石集・拾遺愚草・拾遺和歌集・拾芥抄・拾玉和歌集・袖中抄・貞永式目・正治百首・正徹物語・聖徳太子伝・職原鈔・続後拾遺和歌集・続千載和歌集・続日本紀・詞林採葉抄・新古今和歌集・新猿楽記・神社啓蒙・神社便覧・新拾遺和歌集・新続古今和歌集・新撰朗詠集・新勅撰和歌集・神皇正統記・井蛙抄・惺窩集・政事要略・世諺問答・千載和歌集・撰集抄・草庵集・続世継物語

〈タ〉太平記・多識篇・玉造小町子壮衰書・竹窓随筆・竹窓二筆・長秋詠藻・筑波問答・庭訓往来・桃花蘂葉・当家装束着用抄

〈ナ〉二十二社次第・二十二社註式・耳底記・日本事跡考・日本書紀・年中行事・年中行事歌合・能因歌枕・後成恩寺殿記

〈ハ〉百寮訓要鈔・風雅和歌集・袋草紙・扶桑略記・発心集・堀川百首・編年小史・庖丁書・北山抄・本朝神社考・本朝遯史・本朝文粋

〈マ〉枕草子・増鏡・万葉集・水鏡・無名抄・名所方角抄・藻塩草

〈ヤ〉八雲御抄・大和物語・有職問答

〈ラ〉落書露顕・羅山文集・六花集・李部記・梁塵秘抄・簾中抄・六百番歌合

〈ワ〉和名集